



Title	日米関係（沖縄返還）14(44・12・17高瀬大使・スナイダー公使会談   外務省外交史料館レファレンス番号：H260173)
Author(s)	-
Citation	平成26年度外交記録公開(1)   公開日：平成26年7月24日   外務省外交史料館管理番号：2014-2730   CD・DVD番号：H26-003
Issue Date	
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/43789">http://hdl.handle.net/20.500.12000/43789</a>
Rights	外務省外交史料館所蔵資料

44  
12  
17  
高瀬大使之於公使會談

ソカ 万  
レヒ 博

大政官外務省  
務次官審議長  
臣官審議長  
機文会管給

人電厚計  
国資長領移長  
参参企  
参領旅移

ア参地中東  
長北東西  
参北保  
中南警欧  
参西東洋  
長

近ア参審近ア  
長経次総経国万  
長経協長条  
参参協協  
長経参政経科  
長備軍社專  
文参道内外  
長一二

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

総番号(TA) 57/78  
 69年12月18日10時分 ナハ 主管  
 69年12月9日14時08分 本省 米北1  
 外務大臣殿 馬瀬大使

シナイダー米公使との会談内容

文106号 極秘 (郵送)

17日午後、求めにより在琉中のシナイダー公使と会談したところ、その述べるところ概要下記のとおり。

1. 準備委員会(PREPCOM)の運営について目下検討中であるが、ADCOM同様の委員会と多数作り、それぞれ具体的の事業と協賛する方法と取りたいが、米側のPREPCOM要員は数が多くないので、USCARの協力を得ることとなるべく、今後とも日本側がUSCARとの接触を厚められることを願う。また日本側も、

極秘

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

多数の要員の配置がないと思われるので日本政府沖縄事務所と使われるものと考えている。

2. 米側として琉政をどうしてPREPCOMに積極的に参加せしめるかに関心を持っているが、日本側としても琉政を抱き込む仕組みを十分に検討願いたい。

3. 米人および沖縄人の間に復帰後の状態、特に事業の継続、経済的地位について非常な心配を持っていることを知っているが、彼等の所遇についてはleniencyを持って日本側が配慮されることを期待すると共に人心の安定についてしかるべく措置願いたい。

4. 最近になって特に増加している日本の調査団の来沖およびその言動等によって琉米双方が一憂一憂しており

極秘



極秘

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

ぎ合されているような点もあり。特に「日本の東南部」の如き表現は自分がこれまで使ったことのない言ばであり。明らかにタイポグラフィカルな誤りである。いずれにしても前述の如き日米双方の対処方針でおし通すことが出来るし、今後の発展についてそれほど心配する必要はないものと思ふ旨付言していた趣である。

(3)